

目的

在宅医療を進めるに当たり、患者や家族が在宅医療や延命治療に関して知識を得て、自己決定による治療法の選択ができることが重要である。

この度、島田市において行政を始め、島田市民病院および医師会が合同でリビング・ウイルの冊子を作成し、市民に広報した試みをまとめて報告する。

島田市在宅医療推進協議会

(平成26年7月立ち上げ)

目 内	島田市における患者本位で、多職種が連携した在宅医療支援体制の構築と推進 医師不足による基幹病院の負担軽減
方 法	島田市の医療や介護現状の把握(平成27年高齢化率28.7%) 情報の共有 課題の分析 在宅医療体制の整備
構成員	島田市職員・島田市民病院・島田市医師会・歯科医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション・介護支援専門員・地域包括支援センター・地域医療を支援する会・自治会など有識者の方々

島田市在宅医療推進協議会の実施業務

1	市民への意識調査 それによる市民への啓発活動の実施
2	リビング・ウイル島田版作成「もしものときの医療・ケアについての生前の意思表明」(平成28年3月末までの配布数2870枚)
3	講演会や映画上映による市民への啓発
4	在宅医療に関する啓発用冊子作成「我が家がいちばん」
5	看取りに関する啓発用冊子作成「これから日々」
6	24時間訪問看護ステーション立ち上げ(平成28年4月島田市民病院内) 無駄なく医療材料を購入、共同で利用できるシステムの整備

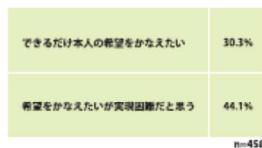
市民への在宅医療に関するアンケート

40歳以上1000人抽出 回答率45.8% 平成26年5月実施

最新期をどこで迎えたいですか？



あなたの家族が在宅医療を希望したら？



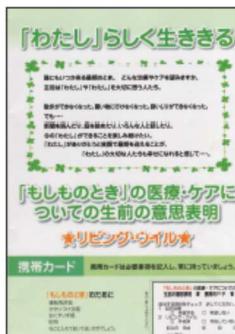
なぜ家族の在宅医療が困難だと感じますか？



実際に島田市で最期を迎えた場所



「リビング・ウイル」冊子作成



もしものときの医療・ケアについて、本人と家族等が一緒になって考えることのできる機会を創出することを目的として「もしものときの医療・ケアについての生前の意思表明（リビング・ウイル島田版）」を作成

広 告

市の広報誌、地域のFMや市のホームページ、ポスター、チラシの掲示

記 布

市の健康づくり課、長寿介護課、地域包括支援センターで個人または講座等を受けた集団を対象

配 布 数

2870枚(平成28年3月末現在)

下の冊子をご参照ください

「我が家がいちばん」在宅医療啓発用冊子作成



市民への意識調査において約7割が在宅での療養を希望していたことを考慮し、市民や家族に在宅医療を理解してもらう目的で作成

【内 容】
在宅医療で何を行うことができるのか、事例を交えてわかりやすく説明

「これから日々」看取りに関する啓発用冊子作成



リビング・ウイルで延命治療を望まない方は自宅での看取りが多い。本人への記述と同時に家族が受け入れるための精神的なサポート体制の確立

【内 容】
自宅で死を迎えるまでの身体的な変化およびその変化を家族がどのように受け止めることが望ましいかについてわかりやすく説明

下の冊子をご参照ください

島田市の在宅診療の問題点

- 絶対的医師不足(島田市医師会会員49名/10万人)
- 24時間対応の訪問看護ステーションがないため医師が全て対応せざるを得ない
- 療養型病院や認知症患者の入院先が少ない(不穏、興奮状態の患者を家では見ることができない)
- 多種多様の在宅医療材料の在庫保有は非経済的
- 人工呼吸器の管理までができる医師の不足
- 小児在宅医療を行う小児科医の不足

考 察

- 在宅医療は常に島田市民病院での入院によるサポートが可能であることを強調。
- がん患者の緩和ケアに関しても、多職種の連携や情報の共有が大切で、患者の理解と家族のサポートが不可欠な要素。そのためには、在宅医療において重要な役割を果たすべき訪問看護の充実が必要。
- 冊子作成においては、なるべく普段の言葉に近いニュアンスに読みやすさに配慮。
- 在宅医療や介護を取り巻く様々なサービス概要と連携についても絵を用いてわかりやすく解説。

結 語

尊厳死という概念はまだ広く理解できていないことから、一般市民に最期は家庭での概念を押し付けられている念を持つ患者や家族がいることも否めない。

リビング・ウイル普及の試みを行うに当たり、地域全体および多職種の理解と連携が不可欠であるので今回の試みとなつた。